
太田茂教授、安部川元伸教授、高宅茂教授退職記念号の発刊にあたって

日本大学危機管理学部 学部長 福田 弥夫

日本大学危機管理学部は、日本大学創立130年の記念事業の一つとして、2016（平成28）年4月に開設され、危機管理学研究所も同時にスタートいたしました。2019（平成31）年4月には1年生から4年生までが揃い学部として完成しました。そして、2020（令和2）年3月には記念すべき第1期生を社会に送り出しました。

開設から5年目を迎え、設置教員としてお迎えした先生方の中から、任期満了等によって退職される方をお送りする時がやってきました。太田茂教授は第1期生が社会に三軒茶屋キャンパスから巣立った昨年3月に、そして安部川元伸教授は昨年9月に退職され、高宅茂先生は本年3月に退職されることになりました。三人の先生には、危機管理学部の教授として、研究、教育そして学部運営などの面で多大な貢献を賜りました。これまでの学部への寄与に感謝するとともに、危機管理学研究第5号を、太田茂教授、安部川元伸教授、高宅茂教授退職記念号として発刊させていただくことといたしました。

太田茂先生は、パブリック・セキュリティ分野の教授としてご着任になり、主に刑事手続法の講座を担当されました。先生の提唱の下に若手の法律系教員が集まり、公務員試験等の対策のための答案添削を行うなど、正規の授業外でも大変熱心に学生を指導してくださいました。また、上野幸彦准教授と共同で執筆された『刑事法入門』は、これまでの先生の検察官としての研究の到達点の一つであると同時に、日本におけるクリミナル・ジャスティス研究の現在の水準を示すものと評価されております。

安部川元伸先生は、グローバル・セキュリティ分野の教授としてご着任になり、主に国際テロリズム論の講座を担当されました。先生のご尽力により、ボストンマラソン爆破事件を題材とした映画「パトリオット・デイ」は、映画館での国内封切りに先駆けて危機管理学部の学生対象に公開され、テロリズムの生きた教材となりました。研究の面では、危機管理学研究に連続してテロリズム関係の論文を執筆されるなど、若手教員の手本ともいえるべき存在でありました。

高宅茂先生は、パブリック・セキュリティ分野の教授としてご着任になり、主に入国管理法の講座を担当されました。留学生や招聘教授などの査証に関し、学部の垣根を越えてアドバイスを下されるなど、国際交流の面でもお力添えいただきました。先生のお書きになった『入管法概説』は、この領域における唯一無二の書物であり、入国管理法研究者必読の書となっております。また、瀧川修吾准教授と共同で執筆された『外国人の受け入れと日本社会』は、先生による若手研究者のご指導の成果であります。

太田先生、安部川先生、そして高宅先生の危機管理学部創成期へのご貢献に衷心より感謝申し上げますとともに、ご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

太田茂教授の略歴と最近の研究業績



1. 略歴

- 1974年 3月 京都大学法学部卒業
- 1977年 4月 大阪地方検察庁検事任官
最高検察庁検事、大阪高等検察庁次席検事、京都地方検察庁検事正などを歴任
- 2011年 8月 検事退官
- 2011年11月 弁護士登録・虎ノ門総合法律事務所入所
- 2012年 4月 早稲田大学大学院法務研究科・法学部教授就任（2017年 3月退職）
- 2017年 4月 日本大学危機管理学部教授就任（2020年 3月退職）

2. 最近の研究業績

(1) 書籍

- 『ゼロ戦特攻隊から刑事へ』（共著）芙蓉書房、2016年 6月 1日。「Memoirs of a Kamikaze」として英語翻訳版を出版 2020年 9月 30日、タトル出版社。
- 『実践刑事証拠法』成文堂、2017年 9月 20日。
- 『応用刑事訴訟法』成文堂、2017年 9月 20日。
- 『刑事法入門』（共著）成文堂、2018年 10月 10日。

(2) 論文等

- 「捜索差押えの特定性の要求に関するアメリカ合衆国連邦裁判所判例の諸法理とその実情」『比較法学』第49巻 1～3号、50巻 1号 2015年 6月 1日。
- 「GPS捜査の課題と展望」（分担執筆）『刑事法ジャーナル』2017-Vol53、2017年 8月 20日、26-58頁。

安部川元伸教授の略歴と最近の研究業績



1. 略歴

- 1975年 3月 上智大学経済学部卒業
- 1976年 4月 公安調査庁入庁
公安調査管理官 調査第二部第二課長 東北公安調査局長などを歴任
- 2013年 3月 公安調査庁退官
- 2013年11月 日本アイシス・コンサルティング株式会社執行役員（2014年12月退職）
- 2015年 4月 日本大学総合科学研究所教授
- 2016年 4月 日本大学危機管理学部教授（2020年9月退職）

2. 最近の研究業績

(1) 書籍

- 『国際テロリズム 101問』立花書房、2007年11月1日。
- 『国際テロリズムハンドブック』立花書房、2015年7月1日。
- 『国際テロリズム その戦術と実態から抑止まで』原書房、2017年3月23日。

(2) 論文等

- 「国際テロリストのリクルート活動と過激化に関する一考察」『危機管理学研究』第2号、2018年3月1日、10～31頁。
- 「国際テロリストによる大量破壊兵器使用の脅威に関する考察～アルカイダと「イスラム国」を中心に～」『危機管理学研究』第3号、2019年3月26日、64～68頁。

高宅茂教授の略歴と最近の研究業績



1. 略歴

- 1981年 3月 東京都立大学大学院社会科学基礎法学専攻博士課程単位取得退学
- 1981年 4月 法務省入省
法務省大臣官房審議官、東京入国管理局長、
法務省入国管理局長などを歴任
- 2013年 3月 法務省退官
- 2015年 4月 日本大学総合科学研究所教授
- 2016年 4月 日本大学危機管理学部教授（2021年3月退職）

2. 最近の研究業績

(1) 書籍

- 『入管法大全（I 逐条解説、II 在留資格）』（共著）日本加除出版、2015年3月31日。
- 『高度人材ポイント制』日本加除出版、2016年2月9日。
- 『よくわかる入管法第4版』（共著）有斐閣、2017年5月25日。
- 『外国人の受入れと日本社会』（共著）日本加除出版、2018年10月1日。
- 『入管法概説』有斐閣、2020年11月10日。

(2) 論文等

- 「水際テロ対策とインテリジェンス」『法律のひろば』69/6、2016年6月1日、12-17頁。
- 「平成30年の入管法改正と外国人行政」『法律のひろば』72/4、2019年4月1日、42-50頁。
- 「外国人行政と行政書士の業務」『月刊日本行政』578、2020年12月25日、3-16頁。

